

Esquire (エスクァイア)

Chicago : Esquire, 1933—

Esquire : エスクァイア日本版

東京 : ユー・ピー・ユー, 1987—

《Esquire》

ローリングトゥエンティーズ（狂騒の20年代）と呼ばれた黄金の10年間の後、1930年代に入るとアメリカでは大恐慌の嵐が吹き荒れる。その不況のさなかの1933年、暗い時代に挑戦するかのようにシカゴで創刊されたのが、「Esquire」である。アメリカ東部のワスパ（WASP：ホワイト・アングロサクソン・プロテスタントに当てはまる層）と称されるインテリ層に読まれていた「New Yorker」誌より後れること8年、本誌は初の“男性のため”の総合誌として、おしゃれなシティマガジンとして創刊された。

本誌は、実にそうそうたる顔ぶれの執筆陣によって育てられてきた。ヘミングウェイ、フォークナー、カポーティ、ダシル・ハメット、ジョン・ドス・パソス、ナボコフ等々、まさにアメリカ文学史の観がある。また、名編集長ハロルド・ヘイズ（Harold Hayes）の手腕により、ニュージャーナリズム*のライターをも育ててきた。ゲイ・タリーズ（Gay Talese）、トム・ウルフ（Tom Wolf）、ジョン・サック（John Sack）などが挙げられる。アメリカの雑誌は、ライターの筆力で読ませると言われるほど、執筆者の力量に負うところが多い。雑誌を選ぶときには、ライターの顔ぶれを目安にする所以である。

また、本誌の表紙や写真はいつも独創的であった。とくに1950年代に活躍したヘンリー・ウルフ（Henry Wolf）の、写真やイラストのカラーージュを用いたウィットに富むデザインは、まったく斬新な「メッセージ性のあるグラフィックス」を雑誌業界にもたらしたし、60年代のジョージ・ルイス（George Lois）の「時の人」をフューチャーしたユーモラスで画期的なクリエイションは、あらゆる旧体制や伝統の殻を破る勢いをもっていた60年代という時代のアメリカを象徴する秀逸作品である。

ファッションや趣味の世界では、本誌は一貫して創刊編集長アーノルド・ギングリッチの言葉、「趣味がよく、スタイルの感覚にすぐれ、そしてよき品質を尊重する男」という理想像に従っている。そしてそれは「『Esquire』から抜け出たような男」という慣用句を生んだ。

なお本誌「Esquire」は1978年3月から誌名が「Esquire fortnightly」に変遷し、隔週発行となった。さらに79年8月にはニューヨークの会社（Esquire pub.）に出版元が移り、再び「Esquire」（月刊）となって今日に続いている。

《エスクァイア日本版》

「Esquire エスクァイア日本版」は、アメリカ版「Esquire」の出版社との提携によって1987（昭和62）年に創刊。季刊でスタートし、88年6月号から月刊化した。アメリカ版の翻訳ページと日本の編集記事とで構成されている。




「Esquire」を象徴する人物のひとり、ヘミングウェイをフェーチャーした日本版創刊号（1987年春号）表紙

OMEGA

新キャラクターを醸成した
スピードマスターが誕生。




スピードマスターは、1950年代から1960年代にかけて、宇宙飛行士や探検家たちの必需品として知られていました。その中でも、最も有名なモデルは、月相表示を備えた「スピードマスター」です。この時計は、月相の周期を正確に計測し、月相の位置を示すことで、宇宙飛行士たちが月面での活動を安全に行うのに役立ちました。



スピードマスターは、1950年代から1960年代にかけて、宇宙飛行士や探検家たちの必需品として知られていました。その中でも、最も有名なモデルは、月相表示を備えた「スピードマスター」です。この時計は、月相の周期を正確に計測し、月相の位置を示すことで、宇宙飛行士たちが月面での活動を安全に行うのに役立ちました。

BREGUET


歴史を継ぐと見做される
時計界のリスマ。



Breguetは、1783年にフランスのブレイグ兄弟によって設立された時計メーカーです。彼らは、時計の歴史を形作る重要な人物であり、多くの革新的な時計を開発しました。その中でも、最も有名なモデルは、月相表示を備えた「Breguet」です。この時計は、月相の周期を正確に計測し、月相の位置を示すことで、宇宙飛行士たちが月面での活動を安全に行うのに役立ちました。

BLANCPAIN


深窓の奇蹟のように、
美しく輝く「白」を
まとった純粋な伝統。



Blancpainは、1735年にフランスのブランパン兄弟によって設立された時計メーカーです。彼らは、時計の歴史を形作る重要な人物であり、多くの革新的な時計を開発しました。その中でも、最も有名なモデルは、月相表示を備えた「Blancpain」です。この時計は、月相の周期を正確に計測し、月相の位置を示すことで、宇宙飛行士たちが月面での活動を安全に行うのに役立ちました。

GLASHUTTE ORIGINAL

8倍の精度で
ドイツの専門ブランド。



Glashutte Originalは、1859年にドイツのグラーシュテによって設立された時計メーカーです。彼らは、時計の歴史を形作る重要な人物であり、多くの革新的な時計を開発しました。その中でも、最も有名なモデルは、月相表示を備えた「Glashutte Original」です。この時計は、月相の周期を正確に計測し、月相の位置を示すことで、宇宙飛行士たちが月面での活動を安全に行うのに役立ちました。

JAQUET-DROZ

1757年創業から
175年の歴史を誇る
時計の専門ブランド。



Jaquet-Drozは、1757年にフランスのジャケッドロズ兄弟によって設立された時計メーカーです。彼らは、時計の歴史を形作る重要な人物であり、多くの革新的な時計を開発しました。その中でも、最も有名なモデルは、月相表示を備えた「Jaquet-Droz」です。この時計は、月相の周期を正確に計測し、月相の位置を示すことで、宇宙飛行士たちが月面での活動を安全に行うのに役立ちました。

日本版2001年7月号 ジュネーブサロン、バーゼルフェアなど高級時計特集ページの一コマ

「Esquire」のよき伝統である「作家に大事にされ、作家を大事にする」、このジャーナリズムと書き手の間の信頼関係は日本版のなかにも生かされ、かつての日本ではなかなか育ちにくかった知的センスアップマガジンとして、本誌が新たな分野を開拓してきたのは周知の事実である。そもそも本誌は、1980年代前半までの類型化されたビジネス社会の時代から、オリジナリティーと創造性、さらに専門分野での真の知識を問われる時代への移行とともに、実にタイミング良く、満を持しての創刊であった。それはまさに日本のファッション界の個性化時代、ライフスタイルとコミュニケーションを自ら調和させ創造する時代とオーバーラップするのである。

創刊当時の記事に、30歳代のニューリーダーたちへのインタビューをもとに彼らのビジョンを総合した特集がある。その中に、この雑誌の方向づけを示唆するようなくだりがある。「旧来型のサクセスは、成功するためにはあらゆるものを犠牲にしてもかまわない、という発想に基づいていた。だが、ここで浮かび上がった新しいタイプのサクセス体現者達は、自分のライフスタイル、価値観を犠牲にしてサクセスを追い求めることはしない」。これからさらに成長しようとするニューリーダーたちを本物志向へいざなう雑誌、ととらえても良いであろう。

実際その内容は、衣食住に関するオーセンティックな情報に加え、車、音楽、旅、映画と多岐にわたり、まさに現代社会の価値観を自分に照らし合わせて創造するための雑誌である。たとえば衣の分野を例に挙げると、やはりスーツの特集が多く、時にはナポリ、ローマを発祥とするクラシコイタリアであったり、背広発祥の地ロンドンのブリティッシュスタイル、はたまた日本のビスポークテラー（注文仕立て）だったりもする。また、頻繁に取り上げられるアイテムが時計であろう。スイスの「パーゼル（パーゼル市で毎年開催される、世界最大級の時計宝飾トレードショー）」や「ジュネーブサロン（ジュネーブで開かれる国際高級時計展）」などは、毎回数10ページにわたる特集が生まれ、充実した内容に仕上げられている。当然、食や住の分野においても同様で、徹底した取材と検証のうえに構築された誌面のつくりこみはみごとだ。あくまでも、ハイエンドユーザーを対象とした誌面づくりが、単なるカタログ雑誌的な内容にとどまっていなかったところに「エスクァイア日本版」の真髓があるのではないだろうか。

創刊以来約20年間変わらぬテストとスピリット＝“Man at his best”、“Art of living”（いずれも本誌キャッチフレーズ）。本誌は、時代の気分は変わり流行が移ろっても、雑誌が提供できる最良のエンターテインメントとは何か、時代に対応するバランスの良い情報とは何かを教えてくれる、「男のためのバイブル」なのである。「エスクァイア」それは、しごく明解な雑誌である。なぜなら「いい読み物といいい写真」満載であるから。……単純な命題だけに難しい。（榎下町伸一）

* 1960年代、アメリカに始まるジャーナリズムのスタイル。主観や個人的体験を大胆に取り入れた奔放な文体が特徴